

## レポート作成に向けて

### 1. レポートとは何か

#### ①小論文、レポート、論文の違い

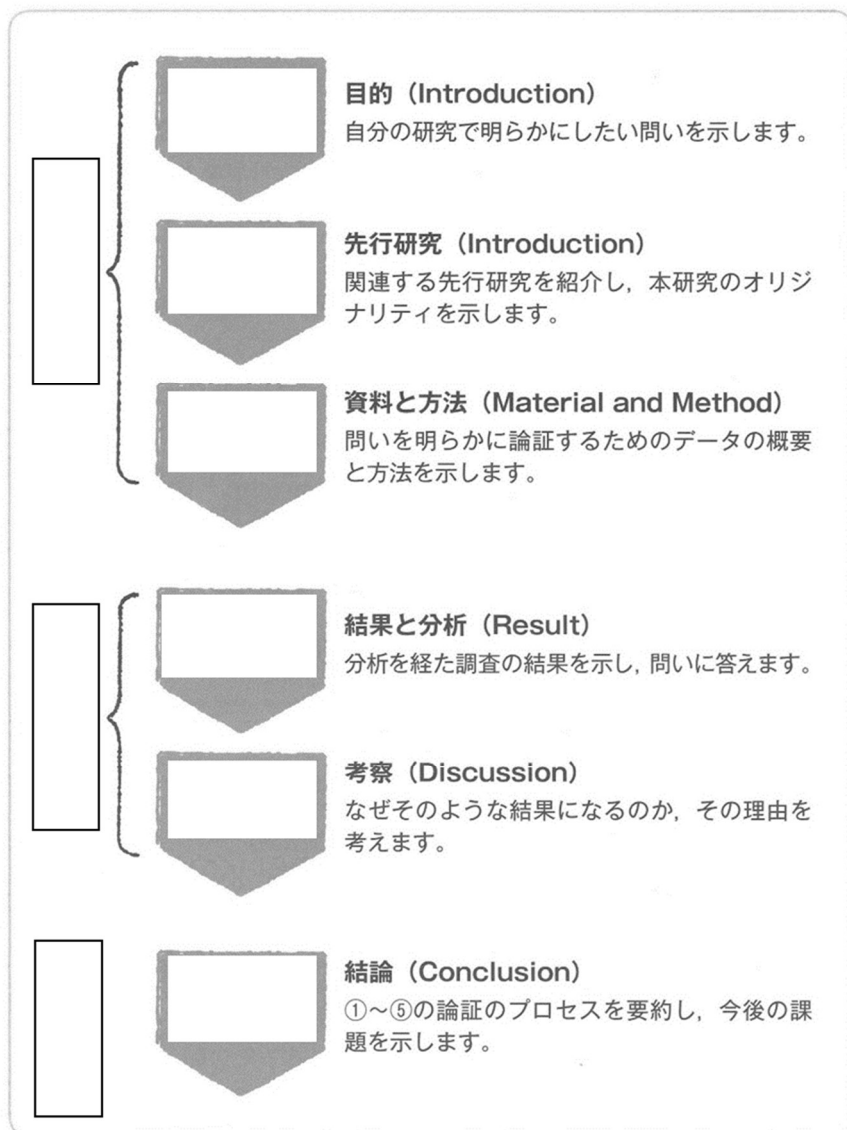
	時期	目的	問い	ウソ	オリジナリティ
小論文	高校	試験に合格	与えられる	ある程度許容	不要
レポート	大学	理解を報告	与えられる	認められない	必須ではない
論文	大学・院	発見を論証	自分で立てる	認められない	必須

つまり、

- ・レポート… ( ) 文章
- ・論文… ( ) 文章

※小論文、レポートは論文の練習！

#### ②論文の構成



## 2. 調べる—先行研究

### ①「巨人の肩に立つ」

人は巨人に比べると遠くを見渡すことはできませんが、巨人の肩の上に乗れば巨人よりほんの少し遠くを視界に入れることができるようになります。

自分の研究がどのような先人たちの積み重ねの上に成り立っているのか、そのルーツを（ ）にきちんと明らかにすることが、学問に関わる者が守るべき（ ）です。

### ②先行研究を引用する意味

先行研究を引用する意味は、自分の研究が、それまでの研究の流れの中でどのような（ ）を占め、そこにどのような（ ）があるかを示すことです。

### ③インターネットによる検索の活用法

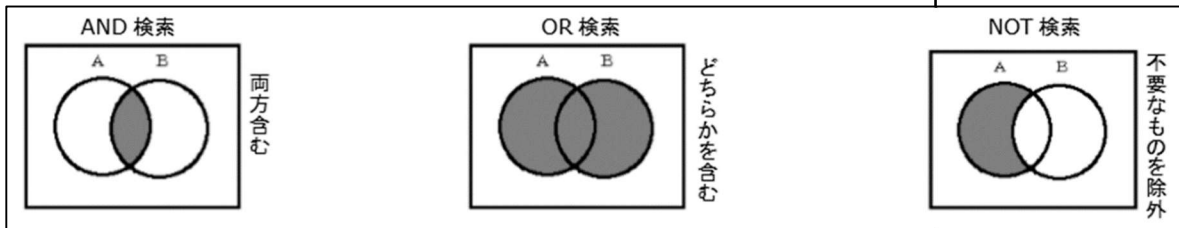
※やってはいけないこと

サイト名	概要	注意点
Google	一般的な検索エンジン。幅広い検索が手軽にできる。	ゴミ（不必要な情報）が多く引っかかる。
Google Scholar	研究専用の検索エンジン。研究に関わるもののみをピックアップできる。	日本国内の文献の検索がやや弱い。
Cinii	日本国内の学術論文を網羅するサイト。「日本の論文をさがす」と「大学図書館の本をさがす」の二つがある。	著書と海外の文献の検索に弱い。
NDL-OPAC	国立国会図書館蔵書検索・申込システム。資料の検索にも向いている。国会図書館のサイト、リサーチ・ナビは、本の種類や研究の分野から調べものをするのに役立つ。	海外の文献の検索に弱い。
各分野の研究機関	専門分野によって異なるが、その分野を代表するような研究機関の情報は有益。	その存在が知られていないことが多い。
自分の大学の図書館	所蔵していなくても、依頼すれば購入してくれたり、提携する他大学から取り寄せてくれる場合もある。	所蔵冊数が少ないことが多い。
Wikipedia	自分が知りたい研究分野の基本概念について、手軽に知ることができる。辞書類とWikipediaを一括検索できるWeblioも便利。	オリジナルの情報源が別にあるため、そのまま引用することは不可。

※Wikipedia について

石黒圭(2012)『論文・レポートの基本』日本実業出版, p.35

※Google Scholar での便利な検索方法



**入力例** ※原則として、記号は半角で入力。OR は半角大文字で入力。

•AND 検索

“ ” の有無で検索結果がどのように変わるか見比べる

•フレーズ検索

OR で検索漏れを防ぎ、検索の幅を広げる効果あり

•OR 検索

マイナス記号の後ろにはスペースを入れない

•NOT 検索

東京大学情報システム部情報基盤科学術情報チーム HP 内「Google Scholar 活用法」  
 ([https://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/manual/guidance13\\_gs.pdf](https://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/manual/guidance13_gs.pdf))  
 <2019年6月16日 閲覧>

④出版物のレベル

専門性	本（著書）	雑誌（学術誌）	辞典・事典
専門レベル	研究書	原著論文	（なし）
入門レベル	入門書・概説書	調査論文	専門辞典・事典
一般レベル	一般書・実用書	エッセイ	一般辞書



石黒圭(2012)『論文・レポートの基本』日本実業出版, p.37

②『広辞苑』や『大辞林』などの国語辞典や英和・和英辞典は参考文献として挙げるできません。なぜでしょうか。

#### ④引用の仕方

- ・( ) の場合  
引用元の文献に書かれた文章をそのまま本文に転記して言及するのが直接引用です。  
引用文が原文のままであることを示すため、引用文を引用符と呼ばれる記号で囲みます。引用符は和文であれば、欧文であれば をそれぞれ用います。  
本論と関係ない箇所を省略する場合は、 と記します。
- ・( ) の場合  
引用元の文献中に書かれていることを、書き手が加工して言及するのが間接引用です。  
参照、要約、敷衍 ( ) に分類することができます。
- ・引用元の書き方  
学会、雑誌、分野、人によって様々な書き方があります。

#### (例1) 書籍からの引用の場合

- ・木下 1981：木下是雄『理科系の作文技術』

#### 中央公論社(1981)

\*次のような書き方をすることもあります。

- ・石黒圭(2012)『論文・レポートの基本』  
日本実業出版

理科系の作文技術  
中公新書 624

1981年 9月25日初版  
2019年 3月 5日86版

著者 木下是雄  
発行者 松田陽三

本文印刷 三晃印刷  
カバー印刷 大熊整美堂  
製本 小泉製本

発行所 中央公論新社  
〒100-8152  
東京都千代田区大手町 1-7-1  
電話 販売 03-5299-1730  
編集 03-5299-1830  
URL <http://www.chuko.co.jp/>

©1981 Koreo KINOSHITA  
Published by CHUOKORON-SHINSHA, INC.  
Printed in Japan ISBN978-4-12-100624-0 C1240

定価はカバーに表示してあります。  
落丁本・乱丁本はお手数ですが小社販売部宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。

本書の無断複製(コピー)は著作権法上での例外を除き禁じられています。また、代行業者等に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用を目的とする場合でも著作権法違反です。

#### (例2) 論文からの引用の場合

- ・山下直(2003)  
「接続助詞『が』の機能分析—文法学習の観点から」  
人文学教育研究, pp60-79

<本日のまとめ>

論文作成においては、先行研究を正しく引用し、自身の研究に役立てるべきだ。

#### 【振り返り】

項目	自己評価
<input type="checkbox"/> レポートとは何かを理解した。	A・B・C・D
<input type="checkbox"/> 先行研究とは何かを知った。	A・B・C・D
<input type="checkbox"/> 先行研究の検索方法を知った。	A・B・C・D
<input type="checkbox"/> 自分で先行研究を検索できるようになった。	A・B・C・D
<input type="checkbox"/> 先行研究の引用方法について知った。	A・B・C・D

#### 【観点】

- A…非常に躍進した
- B…とても力がついた
- C…以前より力がついた
- D…さほど大差ない(実感が無い)。